

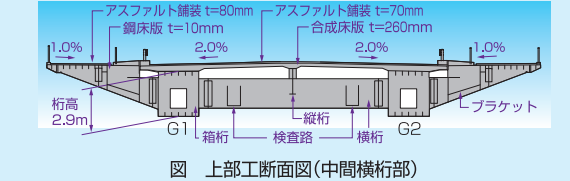
等々力大橋(仮称)の構造諸元・施工方法

設計コンセプト

「伸びやかに広がる多摩川の景観になじみ、市民から親しみを持って長く愛される橋」
～低いタワーが周囲の景観になじみ、都県境としてのランドマーク性・ゲート性をもつ～

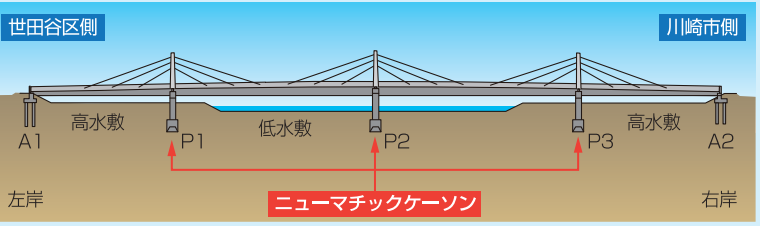
橋梁形式選定の経緯

- 都県境としてのランドマーク性・ゲート性を有しており、利用者に多摩川を渡っていることが認識されます。
- 低いタワーは国分寺崖線の緑等周囲に広がる景観になじみ地域のランドマークとなることから景観性に優れています。
- ケーブル補剛とすることで桁高を低くおさえることができ、製作性に優れています。
- 河川内(低水敷)の橋脚(P2)が1基であり、施工性に優れています。



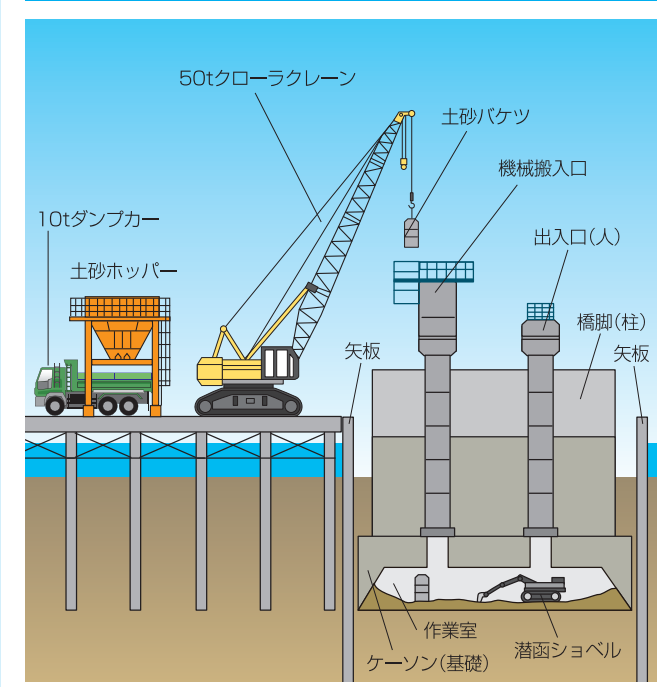
構造諸元

道 路 規 格	第4種第1級 V=60km/h
橋 長 (支 間 長)	385.900m(78.55m+2x113.0m+78.55m)
総 幅 員	31.650m(車道2×7.250m+歩道2×4.000m)
橋 梁 形 式	鋼4径間連続箱桁橋(ケーブル補剛)
床 版 形 式	鋼・コンクリート合成床版 t=260mm
下 部 構 造 形 式	逆T式橋台(A1,A2)、壁式橋脚(小判型) (P1,P2,P3)
基 礎 形 式	橋台:場所打ち杭φ1500、橋脚:ニューマチックケーソン
活 荷 重	B活荷重
耐 震 性 能	耐震性能2
重 要 度 区 分	B種の橋
支 持 地 盤	上総層群泥岩層(Ka-o)
適 用 示 方 書	道路橋示方書・同解説(平成29年11月)



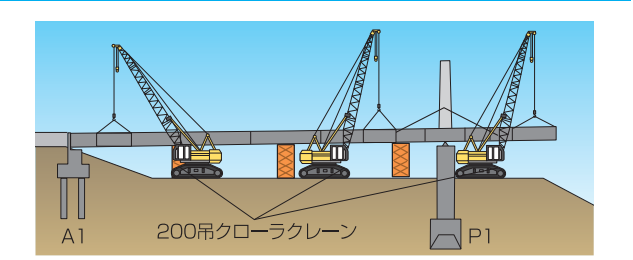
施工方法イメージ

●下部工施工方法 ニューマチックケーソン工法(橋脚)



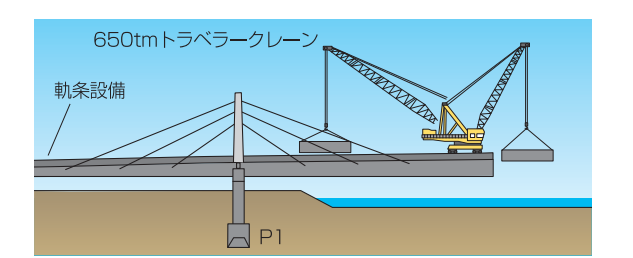
ニューマチックケーソン工法とは、主に橋の橋脚や、地下構造物、地上構造物基礎を築造する為に用いる工法です。特徴としてコンクリート(または鋼材)で作られた函(ケーソン)の中に空気を送り地中から湧き出てる地下水の流入を防ぎながらケーソンの下面を掘削していき、ケーソン(基礎)自体を地中に沈めていきます。

●上部工施工方法 移動式クレーンベント工法(非出水期)



橋梁の架設工法のなかで、最も一般的な工法であり、他の工法に比べ安全かつ施工性・経済性に優れています。橋桁を支持するためのベント(支保工)を設置し、移動式クレーンで組み立てる方法です。
※非出水期:11月1日から翌年の5月31日まで

●トラベラークレーン張出架設工法(出水期)



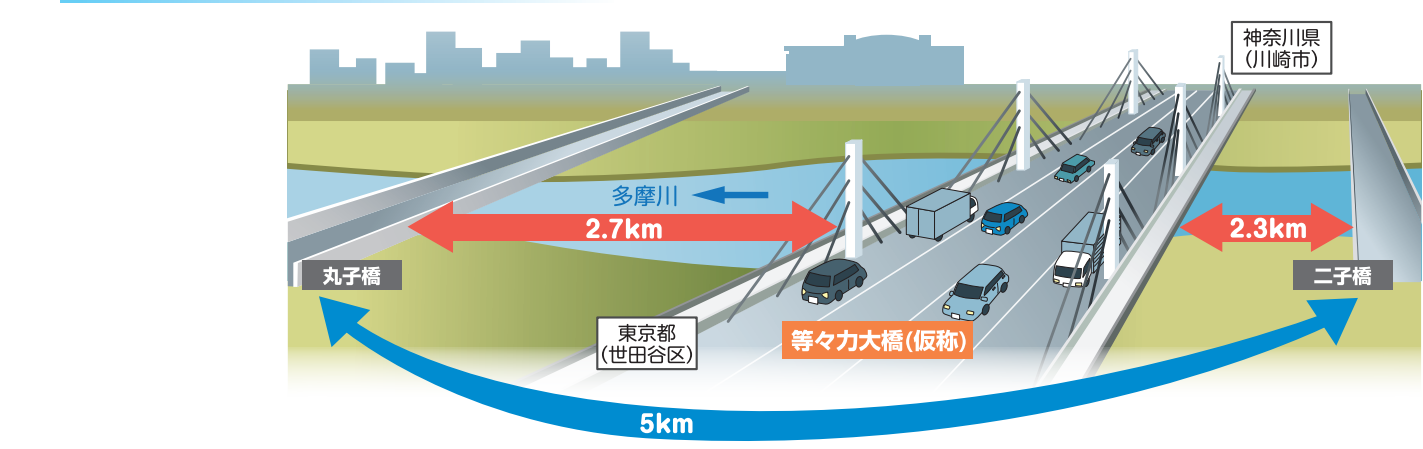
河川上や山間部など、桁下に制限がある場合に用いる工法です。桁上にトラベラークレーンの走行軌条設備を設置するとともに、運搬台車にて架設部材を運搬し、クレーンにより順次張出して架設する方法です。
※出水期:6月1日から10月31日まで

整備効果・事業経緯

等々力大橋(仮称)の整備効果

1 東京と神奈川を結ぶ新たなネットワークが形成され、都市間の連携を強化する大動脈となります

2 都県境をまたぐ橋の間隔が5km から約2.5km に短縮され、交通渋滞の緩和に役立ちます



3 震災時の避難や、救急・消防活動および緊急物資輸送の幹線道路となり防災性が向上します



事業経緯

年度	計画等
平成22年 12月	川崎市と基本協定締結 ※)
平成28年 3月	事業概要及び現況測量説明会
平成29年 3月	用地測量説明会
平成29年 11月	工事着手
平成30年 2月	用地説明会

引き続き工事を進めております。 ※)東京都が整備主体、川崎市が管理主体(費用は都1/2、市1/2負担)

お問い合わせ先

東京都第二建設事務所 工事第一課 工務担当
〒140-0005 東京都品川区広町2-1-36(品川総合庁舎8F)
TEL:03-3774-9002(ダイヤルイン)
ホームページ:https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/niken/

東京都都市計画道路 放射第3号線(目黒通り)と
川崎市都市計画道路 宮内新横浜線 を結ぶ

等々力大橋(仮称)
(東京都世田谷区～神奈川県川崎市)



完成イメージバス(世田谷区側から川崎市側を望む)
※実際の整備内容と異なる場合があります。

東京都 第二建設事務所

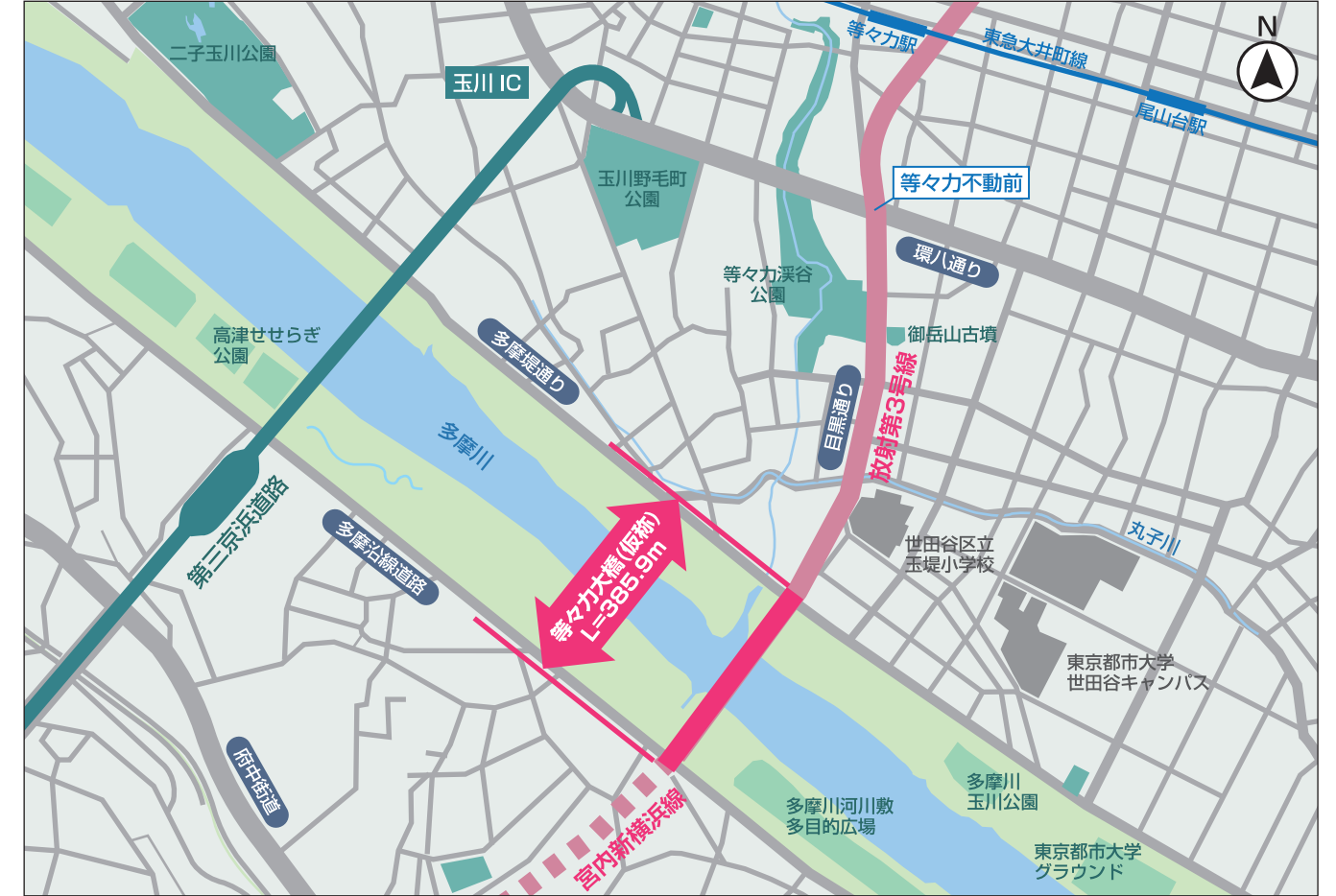
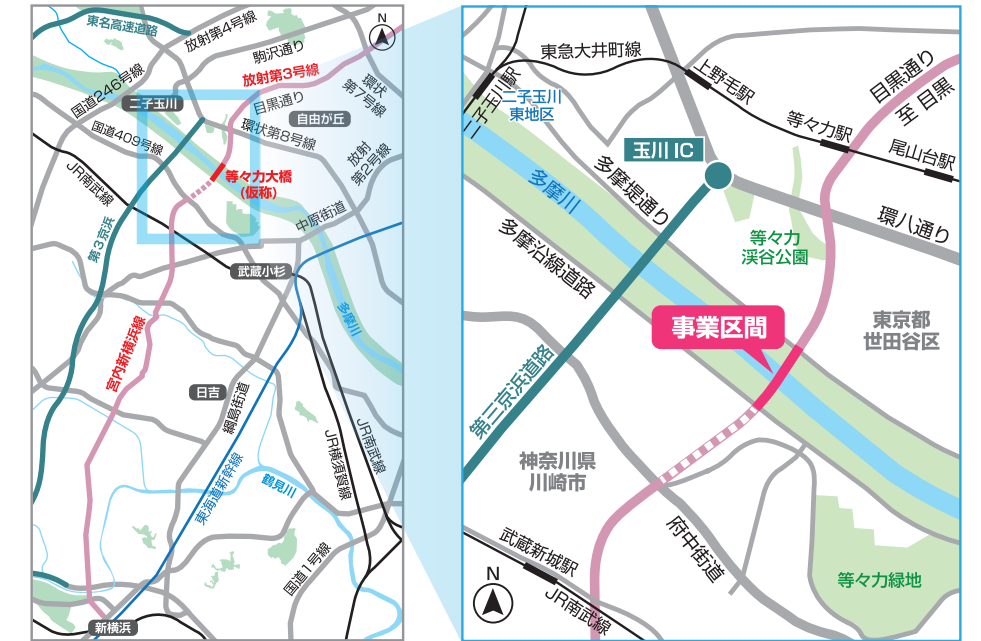
等々力大橋(仮称)のあらまし

はじめに

等々力大橋(仮称)整備事業は、東京都側の都市計画道路放射第3号線と神奈川県側の川崎市都市計画道路3・3・10号線宮内新横浜線を結び、都県境である多摩川を渡河する橋梁整備事業です。

東京と神奈川を結ぶ道路は、放射第1号線(国道1号)、放射第2号線(中原街道)、放射第4号線(国道246号)などが整備され、都市間の連携を強化する大動脈となり、物流や広く人々の交流に資する都市施設となっています。しかし、現在放射第3号線(目黒通り)は都心から川崎・横浜へ至る重要な骨格幹線道路であるにもかかわらず、多摩川に架かる橋が未整備となっています。

本事業により、東京と神奈川を結ぶ新たなネットワークを形成し、都市間の連携を強化するとともに、円滑な物流機能や交通機能を確保することにより、緊急輸送道路として防災性・利便性の向上を図り、また周辺地域において、二子玉川東地区の再開発や等々力緑地の再編整備など、まちづくりに寄与していきます。



完成イメージ

●等々力大橋(仮称) ゆったりと移ろう多摩川の伸びやかな風景と調和し、地域の日々の暮らしや訪れる人々の活動を引き立てる橋



●放射3号線玉根橋(丸子川)付近(目黒通り)



●世田谷区側(都立園芸高校付近)から等々力大橋(仮称)方面を望む



●多摩堤通り交差点付近から川崎市方面を望む



●多摩堤通りの交差点の西側合流部

※この完成イメージパースは計画中のものであり、今後変更となる場合があります。

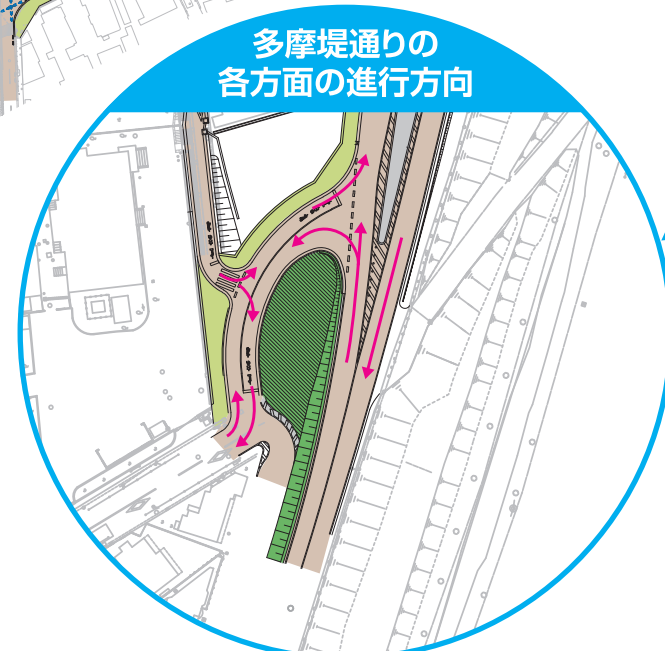
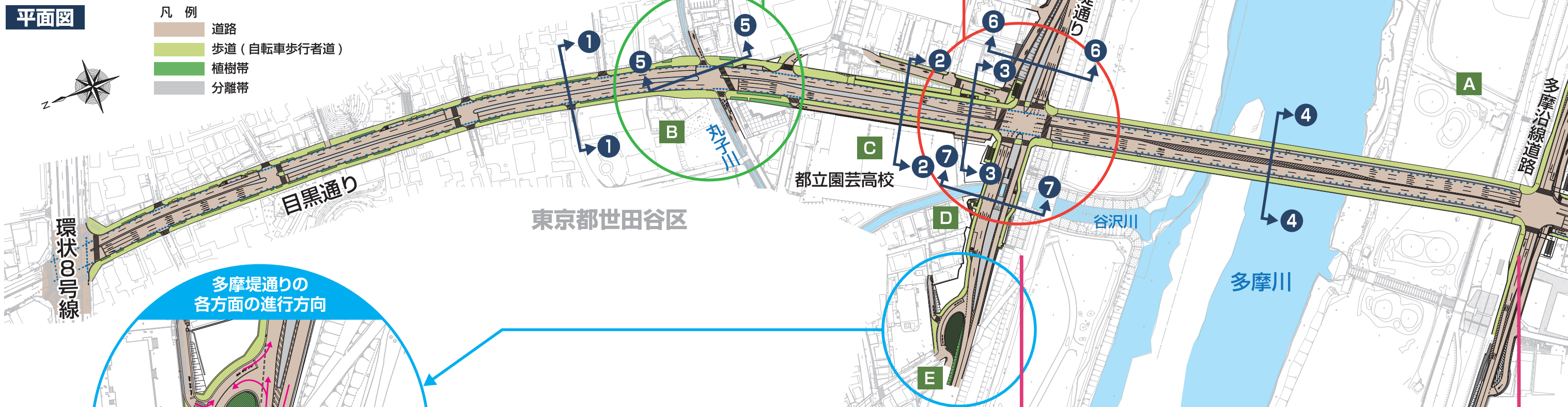
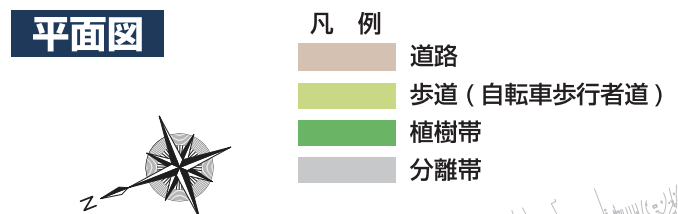
道路構造の概要

計画諸元

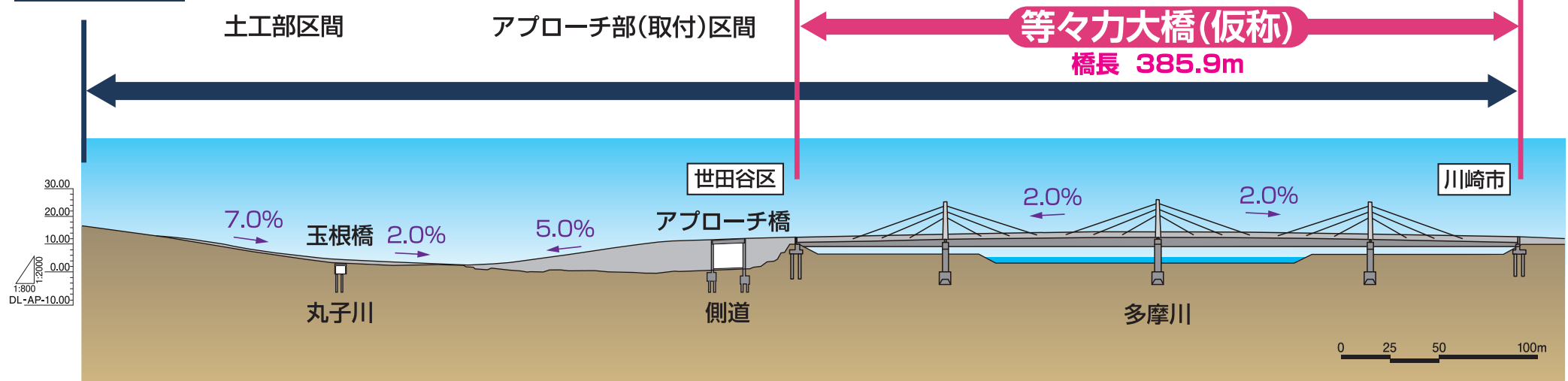
都市計画道路名	東京都都市計画道路 放射第三号線(目黒通り)
道路規格	第4種第1級(本線部 4車線)
道路延長	目黒通り L=960m
設計速度	V=60km/h
道路幅員	25~33m
幅員構成	本線4車線、アプローチ側道1車線、歩道
多摩堤通り	L=375m V=50km/h(現況40km/h)

! 下図は完成時の状況を示し、工事等によって本線以外の車道、歩道は通行できない場合があります。

平面図



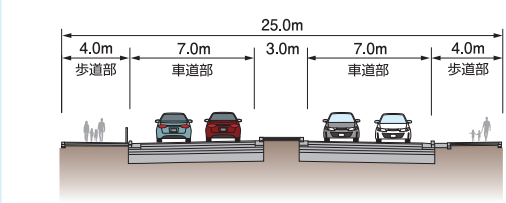
縦断勾配図



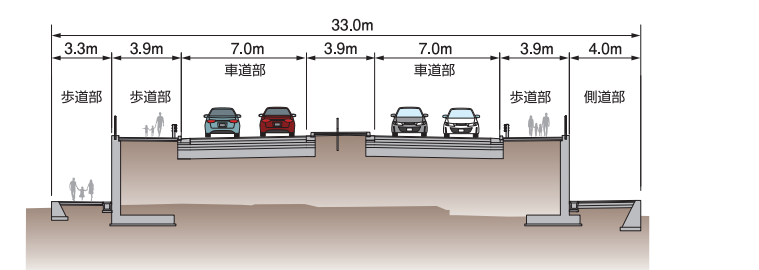
※この計画平面・縦断図は計画中のものであり、今後変更となる場合があります。

横断面図

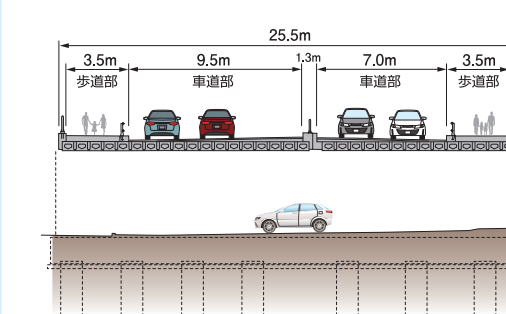
断面図①-① 目黒通り(平面構造区間)



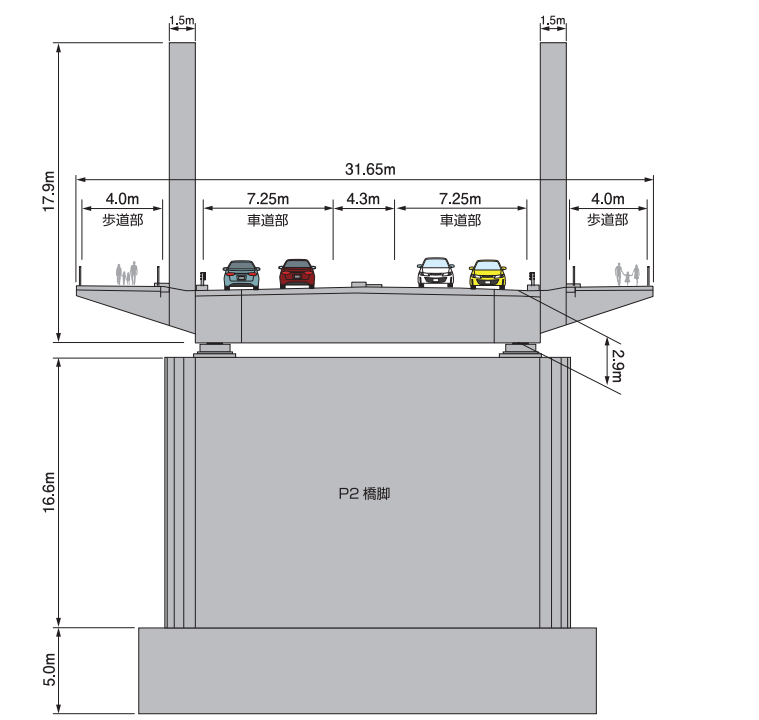
断面図②-② 目黒通り(等々力大橋(仮称)アプローチ擁壁区間)



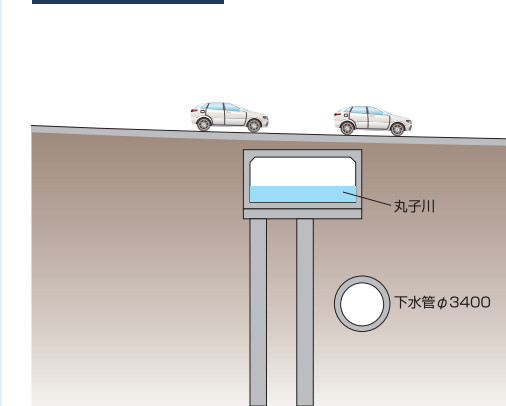
断面図③-③ 目黒通り(アプローチ橋)



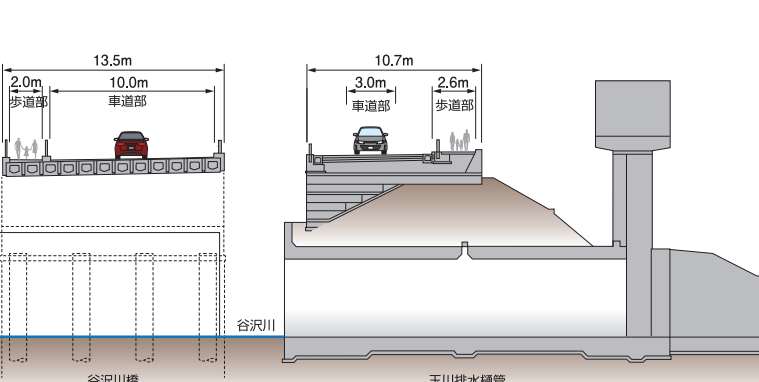
断面図④-④ 等々力大橋(仮称)



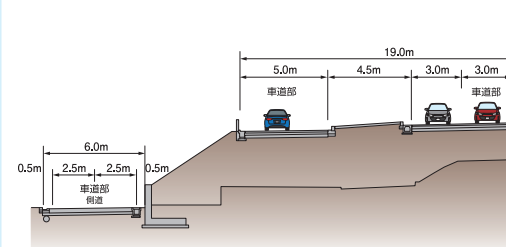
断面図⑤-⑤ 玉根橋(ボックスカルバート)



断面図⑦-⑦ 多摩堤通り(谷沢川橋と玉川排水樋管)



断面図⑥-⑥ 多摩堤通り



※この計画横断面図は計画中のものであり、今後変更となる場合があります。